栄冠を守り抜く

Gakushuin Sports

学習院大学新聞

第65回四大戦総評

栄冠の11連勝

優勝の喜びを噛みしめる本学代表（撮影・吉岡百合子）

旧制高校時代から縁の深い、学習院・成蹊・武蔵・成城の四大学が合同で行うスポーツの祭典のこと。四大戦は略称であり、正式名称は四大学運動競技大会である。昭和25年から秋に行われているこの催しは、今年で記念すべき65回を数える。各校が持ち回りで開催し、今年度は本学が会場となった。

四大戦とは

全競技は、運動部による正式種目、サークル等の有志団体による一般種目、教職員種目の三つで構成されている。各競技の順位に応じて最大４点の得点を加算。参加校の少ない場合や、試合が引き分けで終了した場合などは特別規定が適用されている。最終的に、演武会、教職員種目の二種目を除いた総合得点を競う。本学は四大学のうち歴代１位の総合優勝回数を誇っている強豪校であり、好成績が期待される。

2014年11月10日（月）発行
発行人　吉岡百合子
編集人　高橋悠里・斎藤季映
発行所　学習院大学新聞社　03(3986)0221
内線2607
〒171-8588　東京都豊島区目白１丁目５番１号
黎明会館316号室

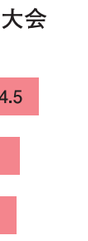
10月17日から19日にかけて、第65回四大学運動競技大会が開催された。本年度は四年に一度の本学開催である。

開会式は、西5号館1階学生ホールにて挙行された。最初に、実行委員長の山田尊広さんが開会宣言をする。本大会のスローガンは「彩（いろどり）」である。大会の関係者全員が一人ひとりの「色」を発揮し、団結した時、一つの「彩」となってほしい。この言葉にはこのような願いが込められているという。各代表者の挨拶やエール交換により、選手たちの緊張感はより一層高まっていった。

秋晴れの中、各競技が始まった。特に大きな問題も発生することなく、順調に試合が進んだ。四大学の個性溢れる応援団を筆頭に、観客も大いに盛り上がりを見せる。各試合が熱気に包まれ、盛況のうちに全ての種目が無事に終了した。

全競技が終了した最終日、閉会式にて最終結果が発表される。一般種目は武蔵大と成蹊大が48点で同率優勝した。本学は多くの種目でなかなか良い結果を出せず、34・5点で最下位となってしまう。また教職員種目では、10点で優勝した成城大に惜しくも届かず、9点で2位となった。一方、正式種目は圧倒的な強さを見せつけ、96・5点で1位を獲得し、本学の総合優勝に大きく貢献した。総合成績では、4位が99点の成城大、3位は武蔵大で120点である。武蔵大と僅差で2位となったのが121・5点の成蹊大。そして本学は2位と10点ほどの差をつけ、131点で総合優勝を遂げた。本大会で11連覇の快挙となる。

賞状と優勝杯が授与されると、代表者たちは高々と掲げた。最後に、次の開催校である成蹊大に大会旗を引き渡し、四大戦は幕を閉じた。各々の力量や努力はもちろんであるが、選手と応援団、観客が一致団結し、士気が高かったことも勝因と言えるだろう。参加者全体の高いモチベーションが、チームを勝利に導く結果となった。今回見せてくれた結束力を、次回の大会でもきっと発揮してくれるに違いない。（林瞳）



芳林堂書店
BOOKS HORINDO
http://www.horindo.co.jp
高田馬場店 03-3208-0241
コミックプラザ　航空公園駅店
東長崎店　イーサイト上尾店
鷺ノ宮駅店　みずほ台店
汐留店　津田沼店
平井店　関内店
所沢駅ビル店　センター北店

学習院大学新聞社
大新
@gakushuinpress

会心の走り

駅伝男女

ガッツポーズを見せる広瀬選手（撮影・高橋悠里）

【19日　駅伝コース】

四大戦最終日を飾る駅伝は、正式種目のうち最大の山場と言っても過言ではない。昨年は悪天候により開催できなかったが、今年は選手たちを後押しするような快晴のもと、スタートの時を迎えた。今大会は、各大学から男女それぞれ8人が、AとBの2チームに分かれて出場。一人につき男子は6㎞、女子は3㎞を走る。開始前、大会運営局長の大谷眞未さん（心4）は「天候に恵まれて良かったです。ここで大差をつけ、総合優勝を狙いたいです」と笑顔で決意を語った。

各大学の力強い応援合戦が響き渡る中、女子のレースが幕を開けた。序盤は各チームが拮抗した戦いを見せる。しかし、周を重ねるに連れて差が開き、Aが5位、Bが7位で次の走者に交代した。巻き返しは厳しいと思われたが、ここから本学は反撃に出る。八掛由起子選手（政1）が快走し、Aは首位、Bは3位まで順位を上げる場面もあった。次の走者も上位を保っていたが、他チームが追い上げを見せてAが2位、Bが4位で最終走者へ。選手たちは三周目に入っても粘りの走りを見せて、上位に迫る。ゴールまで順位を変えることは叶わなかったが、諦めない姿勢を感じさせた。

休憩を挟んで、正午からは男子のレースを迎える。強い風が吹きつけていたが、選手たちの気迫はそれに負けない。Bの藤田貴久選手（政3）が1位、すぐ後にAの飯田拓実選手（法2）が続いて、大きく後続を引き離した。続く第二走者の終盤は、本学チームの一騎打ちとなって、沿道の歓声もひときわ大きくなる。交代後も、両者一歩も引かず、順位を逆転したAの最終走者、広瀬右京選手（法3）が見事1位でゴールテープを切った。続いてBの益田大貴選手（法1）が帰り、本学が上位を独占するという輝かしい成績となった。

レース後、大谷さんは「盛大な応援のなかで、男女ともに素晴らしい成績だったと思います。今回の経験を次に引き継いで欲しいです」と話した。本学の奮闘もさることながら、全ての選手たちが、最後まで全力を尽くした。彼らの思いが込もった襷（たすき）は、きっと来年へとつながっていくはずだ。（筒井麻耶）

演武会

【17日　ピラミッド広場】

快晴を迎えた四大戦初日、演武会が行われた。各校の合気道部、空手道部、少林寺拳法部が習得した技を披露する催しだ。

一番手を務めるのは合気道部である。始めに学年ごとの技の実演があった。上級生の迫力ある技かけは見事だが、1年生の緊張気味ながら力強い演技も目を見張る。最後は山口良太主将（政3）による取りだ。冷静かつ確実に投げを繰り返す姿に観衆は魅了された。終了後は「合気道では技をかける側と受ける側は決まっています。なので、なあなあではない意味のある演武になるよう心掛けました」と話す。

次の出番は空手道部だ。黙想を終え、「始め！」の合図で部員が一斉に突きや蹴りを披露した。次に試割りが行われ、選手が板やバットを破壊するたび、観衆は大きな拍手を送った。特に金直幸選手（政2）が、三枚の板を蹴り技で次々真っ二つにする様は、圧巻の一語に尽きる。演じた後は「いつも通り、皆と息を合わせて出来たと思います」と満面の笑顔で答えた。

ラストを飾るのは少林寺拳法部。団体演武から組演武、単演まで激しくも丁寧な技を見せる。中でも目を惹いたのが宮原真也選手（済1）で、掛け声と力強い演技で周囲を圧倒していた。しかし、演武終了後は「まだ仕上がってはいません。次はもっとキレのあるものを見せたいです」と謙虚だった。

武道は自分を磨き、相手との親和を目指すためにあるのだという。真剣な表情で鍛錬の成果を披露した部員たちは、仲間や他校の選手らと笑い合い、会場を後にした。（石幡智春）

雪辱を果たす

卓球部男子

連携プレーで攻める大西選手（左）と穴原選手（右）（撮影・倉本侑人）

【17日　卓球場】

昨年の団体戦では2位という結果を収めた男子卓球部。今年の団体戦はすでに終わり、3位であった。残る個人戦のシングルス・ダブルスで頂点を狙う。

ダブルスのペアである穴原和真選手（化4）と大西哲司選手（済4）は、当日までのトーナメント戦を勝ち上がる。そして準決勝に出場したこの日、成城大のペアをストレートで下し、堂々の決勝進出を決めた。対戦相手は、もう一方のトーナメントで勝ち抜いてきた成城大のペア。長いラリーの末に先制点を奪われるが、直後に同点となる。本学は緩急をつけたり、ギリギリのラインを狙った巧みなコース取りをしたりと、様々な攻撃で試合を組み立てた。そして、11－5という大差で第1ゲームをものにする。

続く第2ゲームは、相手校が畳み掛けるように攻勢に出て、なかなか流れを掴めずにいた。ところが、本学の力強いスマッシュが決まると、一気に攻めに転じ、連続で4点を入れる。10－7という場面で、レシーブの難しい位置へと正確に打ち込み、完全に流れを制した。

第3ゲームは、成城大も後がないためか、素早い攻撃を仕掛けてくる。しかし、本学は落ち着いた姿勢を崩さず、バランスの良い攻守で得点を重ねた。11－9の白熱した闘いとなるも、第3ゲームを勝ち取り、見事1位を獲得した。

河野裕里主将（政3）は「彼らの四年間の努力の結晶だと思います。4年生は引退ですが、新たなチームで頑張っていきたいです」と語る。目標を達成し、勢いを増す彼らから目が離せない。（相崎百合）

縁の下の力持ち

今年度の開催校である本学は早くから準備を進めてきた。運動部常任委員会を中心に、試合以外でも様々な取り組みがなされている。

学生にアイデアを募り、四大戦公式キャラクターとして「よつぱんだ」が誕生。四大戦の広報に一役買っており、大会期間中も、看板、うちわなどを彩った。また、サブウェイとのコラボメニューを展開したり、一昨年まで制作されていた四大戦Tシャツを復刻させるなど積極的な企画が盛りだくさん。実行委員長の山田尊広さんは「四大戦へ参加してもらえるきっかけを作れるように努力しました。次回もより多くの人に楽しんでいただけたら嬉しいです」と話した。

毎年、裏方として多くの人たちが協力している。そうした活躍に感謝しつつ、来年度も一人ひとりの個性が光る大会になることを願おう。

全日本学生応援団連盟
第64回連盟祭
神忍
日程　2014年11月29日(土)
場所　東京タワー
開演　12:30
※學習院大學應援團は15:00頃出演予定
加盟校15校によるリーダー公開、合同バンドによる演奏など、
日本最大の応援団連盟による迫力ある演技をお楽しみ下さい！
皆様のご来場を心よりお待ちしています。
學習院大學應援團吹奏楽部
第17回定期演奏会
2014年12月21日（日）
学習院創立百周年記念会館正堂
開場 14：00　開演 14：30
第Ⅰ部　喜歌劇「小鳥売り」セレクション
朝鮮民謡の主題による変奏曲
第Ⅱ部　ポップスステージ「四季」
入場無料
お問い合わせ：regularconcert.gwe@gmail.com
吹奏楽部ブログ
吹奏楽部Twitter

女子部員急募！！
射撃部
活動日は火・金・土
部員は全員初心者スタート
毎年全国大会出場
見学随時受け付け中！
黎明525の部室でお待ちしています◎
たのしい！お手軽！つかれない！
射撃を始めてみませんか？

二〇一四年度学習院大学史学会例会案内
サントリー美術館　高野山開創一二〇〇年記念
高野山の名宝
11月29日（土）
午前の部（10時～12時）
講演
鐘江宏之氏（学習院大学教授）
「空海と高野山」
会場　学習院大学　北2号館10階　大会議室
午後の部（14時～）
見学会
サントリー美術館　高野山開創一二〇〇年記念
「高野山の名宝」
会場　サントリー美術館
※開始10分前に美術館前に集合してください
※午前の部のみ・午後の部のみの参加も可能です
また予約不要・参加費無料となります
お問い合わせ：〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1 学習院大学文学部史学科内
学習院大学史学会
MAIL：reikai.gakushuin.1847@gmail.com（担当　那須香織）
HP　：http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~hist-soc/

一般種目

守り切った1点

緊迫の投手戦

軟式野球

2年連続で優勝を逃していた一般種目。今大会も、各チームが周囲からの声援を力にベストを尽くした。華々しい勝利を収めて総合優勝へ後押しした競技もあったが、本学は他の三大学に差をつけられ、残念ながら4位に終わった。

優勝の喜びを分かち合うジョイスルの面々（撮影・石幡智春）

【18、19日　野球場】

決勝は、学習院のチーム同士による戦いになった。2試合で13得点を挙げたジョイスル（本学A）と、堅い守りが持ち味のジーラス（本学B）とが激突する。試合に先立ち、本学Aの虎谷翔選手（法2）は「先輩方はこの試合で引退なので、優勝という形で花を持たせたいです」と語った。

その虎谷選手と、中林賢一選手（化1）の投げ合いで試合は展開した。両投手とも、立ち上がりこそ不安定だったが、二回以降は安定した投球を続け、相手に付け入る隙を与えない。どちらのチームも決定機を作ることが出来ず、スコアボードには初回からゼロが並んだ。

試合が動いたのは三回裏。四球とバント処理のミスに安打で続き、本学Aが1死満塁の好機を迎える。ひと際大きくなった味方の声援を背に受け、藤田康平選手（営2）が打席へ入る。平行カウントからの五球目、藤田選手は中林投手の速球に食らいつき、前進守備の内野を抜く適時打を放った。この当たりで三塁走者が帰り、待望の先制点が入る。さらなる追加点を狙い、続く走者も三塁を回るものの、好返球によって惜しくもアウトとなり、得点は1点に終わった。

援護を貰った後の四回表、虎谷選手は先頭打者に死球を与えてしまう。しかし、動揺することなく、打たせて取る投球で後続三人を内野ゴロに仕留め、無失点に切り抜けた。その裏、本学Aは無死の走者を一塁に置いて、虎谷選手に打席が回る。合わせて打った球は右中間に落ち、さらに塁が埋まった。その後、内野ゴロなどを挟んで、2死ながら一、三塁と追加点の好機を作る。だが、次の打者がファーストゴロに倒れ、得点にはならなかった。

そして、抑えきれば優勝が決まる五回表、虎谷選手は速球で押し勝ち、二者連続でセンターフライに打ち取る。その後、四球で走者を出したが最終打者をファーストゴロで締め、1−0で試合は終了した。

勝利したジョイスルの木村郁哉主将（法3）は「優勝を目標に頑張ってきたので、それが達成できて良かったです。これからも勢いのあるジョイスルであり続け、来年も優勝したいです」と喜びを語る。力投した虎谷選手については「ここまでずっと頼りっぱなしでしたが、この試合は、チームを一年間支え続けてくれた彼の集大成でした」と称えた。

優勝の如何には依らず、意識はすでに未来へと向いている。さらなる高みを求める球児たちの、倦むことのない励みに、最終回はない。（西田哲健）

教職員種目

熱戦で親睦深まる

【18、19日　軟式庭球場、野球場、大学体育館】

学生たちが勝利を目指して奮闘する裏側で、実は教職員の方々も、テニス、ソフトボール、バレーボールの3種目でしのぎを削っている。仕事中とは打って変わったお揃いの青いTシャツ姿は、新鮮さと団結力を感じさせた。

18日、昨年優勝を収めたテニスが行われた。しかし、今年は勝ち運に恵まれず、残念ながら3位に終わる。翌日のバレーボールも健闘したものの、決勝戦で惜しくも敗れ、両種目ともに来年のリベンジが期待される。

今大会で最も盛り上がりを見せた競技は、19日に実施されたソフトボールだ。成城大学との初戦では、大きな声援が送られる中、一回裏の初打者である小笠原正弥さん（総務課）が2ベースヒットを放ち、本塁打も飛び出す幸先の良い出だしとなった。最終回で失点を喫するも、7点の差をつけて勝利を収める。決勝戦は、攻守ともにミスの少ない成蹊大学との対戦だった。初めは思い通りのプレーが出来なかったが、二回裏で打席に立った瀧澤拓也さん（経営企画課）のホームランをきっかけに本来の調子を取り戻し、6点を獲得。次の守備回では、笠原敏裕さん（中・高等科事務室）の鋭い投球と、内野手の確実な送球で、満塁のピンチを切り抜ける。それからも着実にリードを広げ、10−3で戦いを制し、栄えある優勝を果たした。本学を率いた笠原さんは「活躍が未知数だった新人から、ベテランの方までそれぞれ力を発揮し、上手くチームになっていました。来年も頂点を目指したいです」と笑顔を見せた。

教職員種目はレクリエーションの一環でもあり、また、互いの交流の場にもなっているという。楽しく、そして真剣に競技に臨む様子は、学生たちに負けない輝きを放っていた。（濱田莉沙）

王座を奪還

フットサル女子

相手を上手くかわし敵陣へ進む安藤選手（撮影・菊井章）

【18日　多目的コート】

熱い日差しの下で、D・T・Mの試合が始まろうとしている。決戦を控え、ダブルキャプテンの一人、安藤西選手（法4）は「去年は、準優勝という悔しい結果となってしまいました。今年は一人に頼らない攻め方をし、みんなの笑顔で締め括りたいです」と熱く語ってくれた。準決勝の相手は、昨年の決勝で敗れた成蹊大だ。この一戦が優勝への第一歩となる。

本学のキックにより、熱戦の火蓋が切り落とされた。序盤から、巧みなパスワークで自分たちのペースを作っていく。隙があればボールを打ち込み、反撃の契機を与えない。だが、成蹊大もそれに負けじと必死に食らいついてくる。両者とも一歩も譲らない展開で、前半が終了した。

後半戦に突入すると、もう一人のキャプテンである佃祐希選手（英2）が均衡を破る貴重な先制点を上げる。さらに、相手の堅い守りを抜け出し、上原静奈選手（英2）が鮮やかにシュートを決めた。一方で、失点の危機が迫るたびに、小鳥居結子選手（営1）が体を張って阻止。試合終了5分前、コーナーキックの権利を得ると、キッカーの安藤選手と佃選手の目が合う。その刹那、蹴られたボールを佃選手が上手く合わせてゴールネットを揺らした。これが決定打となり、3−1で成蹊大に対し見事に雪辱を果たした。

続いて行われた武蔵大との決勝戦も、序盤はペースを奪われていたものの、金親聖美選手（政3）の得点で流れを引き寄せる。さらに点を重ねて後半を迎えると、追いつこうとする武蔵大は奮起し、何度も強烈なシュートを放った。本学は、2点のリードをチームの連携で守り抜くことに徹する。そして、激闘の終わりを告げるホイッスルが鳴り響くと、選手全員が中央に自然と集まり、互いの健闘を称えあった。一年前、悔しさで溢れていた彼女達の瞳に、喜びの涙が光っていたのが見えた。

試合を振り返り、安藤選手は「不安もありましたが、佃選手の先制点で、このメンバーなら大丈夫という自信が確信へと変わりました。まだ引退まで時間はありますが、安心して後輩たちに引き継げます」と、これまでの思いが溢れ出たかのように話した。チーム全員で得たこの感動は、彼女たちの心の中に残り続けることだろう。（倉本侑人）

敢闘の末散る

サッカー男子

【17日　北グラウンド】

男子サッカー1回戦第3試合は、FCジャミラ（本学A）と武蔵大Bで行われた。同じFCジャミラの本学Bは、第1試合で成蹊大Aに敗退。苦杯を喫した仲間の分まで勝利すべく、一丸となって試合に臨んだ。

多くの観客が集まる中、前半開始を告げるホイッスルが鳴る。4分に、主将の新田玲悟選手（政2）がPKを奪って、得点の機会が与えられる。蹴られたボールは相手キーパーに跳ね返されるも、味方がこぼれ球を再びシュート。しかし、惜しくもゴールの上を通過し、好機を逃してしまう。その後も、果敢に攻撃を仕掛けたが、武蔵大の堅い守備に苦戦を強いられる。結局、0−0でスコアに動きがないまま試合は後半戦に進んだ。

本学は、丁寧なパス回しで粘り強く隙を狙うが、相手も守りを固めてこれを阻止する。一進一退の攻防が続く中、19分にチャンスが巡ってくる。長手達哉選手（営3）がサイドから高く浮かせたボールが、運良くゴール前に落ちたのだ。三ヶ田健人選手（済3）がこれに素早く反応してシュートを打ち込むが、わずかに軌道が逸れてしまう。両者ともにネットを揺らすことが出来ずに後半戦も終了し、勝負の行方はPK戦に委ねられた。

どちらも、4番手までは全員がゴールを決めた。緊迫した場面で、5番手キッカーである上田捷吾選手（法2）の出番が訪れる。選手たちが固唾を飲んで見守る中、力強く蹴り上げられたボールはネット内の左側の空間を捉えた。しかし、相手キーパーがすかさず反応し、残念ながらキャッチされてしまう。そして、武蔵大の最終キッカーがPKを制し、本学の敗北が決まってしまった。

この結果を受けて、新田選手は「相手の守備に阻まれて、自分たちのプレーが出来なかったです」と悔しさを滲ませた。今回の経験を糧に、来年度はさらに成長した姿を見せてくれるだろう。（斎藤修眞）

守備網を破る長手選手（撮影・榎本めい）

逆転ならず

バスケットボール男子

【18日　中高体育館】

シード権を有していたスピリッツOB（本学A）と相対するのは、前日の試合で勝ち上がってきた武蔵大Bだ。試合前、田中遼平キャプテン（政4）は「僕たちにとって最後の四大戦なので、特別な意味を持つ試合です。しかし、結果にとらわれず、内容にこだわりたいです」と話した。

序盤、関口真稔選手（独4）のミドルシュートでの先制を皮切りに、安定したプレーが展開される。キレのあるドリブルで、相手を抜き去る山口周一選手（政4）の動きが冴える。さらに、生野裕康選手（政4）も確実に点を重ねていった。危なげなく11−6とリードして第1クォーターを終えた。

第2クォーターでは、徐々に選手たちに疲れが見えてくる。相手の速攻に対応できず、苦しい時間帯が続く。スコアは16−25と逆転されてしまった。

ハーフタイムが終わり、第3クォーターに入る。立て直しを図った本学は、山口選手の連続得点で勢いに乗る。大須賀渉選手（法4）はリバウンド、ブロックに加え、ゴール下のシュートを決め、相手のプレッシャーをものともしない。さらに、田中選手の的確なパスで、ゲームを有利に進めた。流れを取り戻し、32−35という、3点差にまで追い詰める。

ところが、ここで点差を縮めたい第4クォーター。相手の激しいディフェンスに、交代選手の少ない本学は疲れを隠せない。相手のシュートが外れても、リバウンドが取れない。残り数十秒で大須賀選手が得点を決めたが、無念にも38−52で幕を下ろした。

田中選手は「悔しいというよりも、チームのみんなとバスケが出来なくなることが寂しいです。しかし、またいつか一緒にプレーしたいと思います」と試合後に語ってくれた。四度の四大戦出場というバスケットに対する情熱に、拍手を送りたい。（道口大熙）

果敢に攻める本学（撮影・高瀬尚一郎）

今年度四大戦での本学の各競技得点

正式種目※				
アイスホッケー	1.5	陸上競技	4	4
アメリカンフットボール	2	正式種目合計	96.5	4
駅伝（男）	4	一般種目		
駅伝（女）	4	テニス（男D）	0	
弓道（男）	4	テニス（女D）	3	
弓道（女）	2	テニス（混合D）	3	
剣道（男）	3	サッカー	0	
硬式庭球（男）	2	フットサル	4	
硬式庭球（女）	3	ソフトテニス（男）	1	
硬式野球	2.5	ソフトテニス（女）	0	
ゴルフ	4	ソフトテニス（混合）	2	
サッカー	3	軟式野球	4	
柔道	3	ソフトボール（男）	3	
水泳	2	ソフトボール（女）	3	
水球	1.5	バスケットボール（男）	0	
漕艇	1.5	バスケットボール（女）	1	
卓球（男）	2	バレーボール（男）	2	
卓球（女）	3	バレーボール（女）	0	
バスケットボール（男）	4	バドミントン（男D）	0	
バスケットボール（女）	4	バドミントン（女D）	3	
バドミントン（男）	3	卓球（男S）	0	
バドミントン（女）	3	卓球（男D）	1	
バレーボール（男）	2	卓球（混合D）	1.5	
バレーボール（女）	3	卓球（女S）	1	
ハンドボール	2	卓球（女D）	2	
ホッケー（男）	2	一般種目合計	34.5	
ホッケー（女）	1.5	教職員種目		
洋弓（男）	4	テニス	2	
洋弓（女）	4	ソフトボール	4	
ヨット	2	バレーボール	3	
ラクロス（男）	2	教職員種目合計	9	
ラクロス（女）	4			
総合得点	131			

※自動車、軟式野球、軟式庭球、ワンダーフォーゲル、フィギュアスケート、フェンシング、ボウリング、スキー（男・女）は今大会行われず、馬術、剣道（女）は中止となりました。

合格のれっつLEC

公務員

2014年公務員試験
学習院大学より
合格者輩出!!

Congratulations!

2013年度合格祝賀・交流会関東会場

経済学部　在学中合格
最終合格：特別区、千葉県庁、国家一般職

玉田 裕之さん　受講コース　LEC　2014年向け 地方上級・国家一般職・市役所併願コース

最終合格に必要なサポートが充実していると感じLECを選びました！

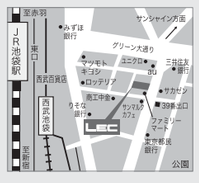
LECを選んだ理由　公務員試験というと筆記試験に目が行きがちですが、最近は多くの試験種が面接重視に移行しており、最終合格するには勉強・面接両面で万全の準備をすることが必要です。その点LECなら勉強面は勿論ですが、面接対策においても、大手予備校ならではの豊富なノウハウ・担任相談・リアル面接シミュレーション等最終合格に必要なサポートが充実していると感じ選びました。

予約不要・参加無料

公務員公開講座・無料体験会のご案内

公開講座
●まだ狙える!!
2015年公務員試験短期合格カリキュラム
11/29（土）12:00〜13:30　生講義

無料体験会
●教養マスター　判断推理
11/22（土）16:30〜19:00　生講義



LEC池袋本校
☎03-3984-5001
〒171-0022　豊島区南池袋1-25-11 第15野萩ビル（受付4階）
JR・西武池袋線・東武東上線・副都心線池袋駅東口を出て徒歩3分。または地下通路進み、39番出口より徒歩1分。

LECでは学習院大学生向けに公務員試験対策講座を特別価格でご提供しております。
詳細は学習院大学キャリアセンター、学習院薬々会設置のリーフレットをご確認下さい。お問い合わせは最寄りのLEC池袋本校へお問い合わせ下さい。

LEC東京リーガルマインド　池袋本校　☎03-3984-5001
■受付／平日11:00〜21:00　土・日・祝9:00〜19:00
■開館／平日 9:00〜22:00　土・日・祝9:00〜20:00
早朝答練実施日には開館6:45です。

KV1410007

献血のお知らせ！！

主催　学習院大学・學習院大學應援團
東京目白ライオンズクラブ

日時　11月11日（火）
受付時間　10:00〜11:15／12:30〜16:30

会場　西5号館横

患者さんの安全のために400ml献血にご協力お願いします！

お問い合わせ：東京都赤十字血液センターTEL03−3940−5612